

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

お客様相談センター【ご利用時間 9:00～18:00】※全日対応(土・日・祝日対応)

●フリーダイヤル

☎ 0120-20-8822 ※携帯電話、IP電話からもご利用いただけます。

全国営業拠点

■支店の移転等により連絡がとれない場合は、下記のアドレスから最新の電話番号をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



●北海道支店	TEL (011) 786 - 5122	●北陸支店	TEL (076) 263 - 4311
●東北支店	TEL (022) 288 - 8676	●関西支店	TEL (06) 7167 - 3644
●東京支店	TEL (03) 5753 - 7703	●中国支店	TEL (082) 504 - 8282
●関東支店	TEL (03) 6374 - 5687	●四国支店	TEL (087) 863 - 6761
●中部支店	TEL (052) 533 - 0231	●九州支店	TEL (092) 621 - 5772

工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99748401 306 M

HIKOKI

取扱説明書

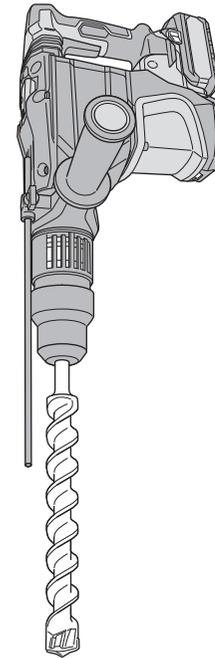
コードレスハンマドリル

36V DH 3640DA [SDS-max シャンクタイプ]

お得な情報や
ユーザー登録は
コチラから!



このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



はじめに

コードレス工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	5
リチウムイオン電池の使用上のご注意	7
用途	8
各部の名称	8
標準付属品	9
仕様	10
別売部品	11

使い方

サイドハンドルの取付け	13
工具の取付け・取りはずし	14
ストップの使い方	15
蓄電池の取付け・取りはずし	16
LEDライトについて	16
作業モードの設定	17
スイッチについて	18
連続運転ボタンについて	18
回転数・打撃数の調整	19
保護機能について	20
RFCについて	21
スリップクラッチ機構について	22
作業上のご注意	22
穴をあける	23
ハツリ・破碎する	25
コアビットの使い方	27
ドリルチャックの使い方	29

その他

保守・点検	30
ご修理のときは	裏表紙

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**
弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
 - コードレス工具は、雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。感電や発煙の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体やガスがある所での使用・充電・保管をしないでください。発火や火災の恐れがあります。
- ③ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
切削した物や粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ④ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。
固定が不十分な場合は、加工する物が飛んで、けがの原因になります。

⚠警告

- ⑤ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。**
 - 使用しない、または、準備・調整・保守・点検する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑥ **不意な始動は避けてください。**
スイッチに指を掛けて運ばないでください。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑦ **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。事故やけがの原因になります。

⚠注意

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、コードレス工具に触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
 - 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ③ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
事故の原因になります。
 - コードレス工具を、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。
劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
 - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。
発煙、発火の恐れがあります。

⚠️注意

- ⑤ **作業に合ったコードレス工具を使用してください。**
- 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。
- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。滑りやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
- 常に足元を安定させて、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- ⑧ **コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。
 - 付属品や先端工具の取付け・取りはずしは、取扱説明書に従ってください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑨ **調整キーやスパナなどは、スイッチを入れる前に取りはずしてください。**
- 調整キーやスパナなどの工具類が、取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑩ **油断しないで十分注意して作業をしてください。**
- コードレス工具を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑪ **十分な防じん対策や飛散防止対策をしてください。**
- 特に、人体に有害な成分を加工するときは注意してください。
- ⑫ **アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用しないでください。**
- アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康被害を発症させる物質です。

⚠️注意

- ⑬ **損傷した部品がないか点検してください。**
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 破損した保護カバー、その他の部品交換は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑭ **コードレス工具の修理は、専門店で依頼してください。**
- サービスマン以外の方は、工具本体や蓄電池の分解・修理・改造をしないでください。発火や誤作動など、けがの原因になります。
 - コードレス工具が高温になるなど、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているため改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
 - アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用したコードレス工具の保守・点検・修理は受けられません。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレスハンマドリルについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。
埋設物があると先端工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ② 使用中はサイドハンドルを取付け、振り回されないようにハンドルと、サイドハンドル両方を確実に保持してください。
- ③ 使用中は、工具類に手や顔などを近づけないでください。
- ④ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑤ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、工具類や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
- ⑥ 蓄電池は確実に取付けてください。
確実にしないと、蓄電池が抜け落ちて、けがの原因になります。
特に高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
- ⑦ 工具本体の端子部(蓄電池取付部)に、コンクリート粉じんや切りくず、ほこりがたまらないようにしてください。
 - 使用前に、端子部にコンクリート粉じんや切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
 - 作業中に、機体に付いたコンクリート粉じんや切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
 - 使用中断時、および使用後にコンクリート粉じんや切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。
短絡(ショート)して、発煙・発火などの恐れがあります。
- ⑧ 工具本体の端子部(蓄電池取付部)に変形が生じた場合は、使用しないでください。
蓄電池を取付けた場合に短絡(ショート)して、発煙・発火の恐れがあります。

⚠注意

- ① 付属品や別売部品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ③ 騒音からの保護のため、耳栓を着用してください。
- ④ 作業中は、ヘルメット、安全靴を着用してください。
- ⑤ 使用直後の工具類は高温になっているので、触れないでください。
- ⑥ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑦ 運転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑧ 作業の際、機体を無理に押し付けしないでください。
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。
- ⑨ 機体で材料をたたき、落下等の強い衝撃を加える、水にぬらすことなどをしないでください。
内蔵している精密部品が破損し、誤作動等をおこす原因になります。
- ⑩ LEDライトをのぞき込んで、直接ライトの光を目に当てないでください。
- ⑪ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。

⚠警告マークについて



このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。
蓄電池を工具本体に装着したまま準備や点検、工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品はリチウムイオン電池を使用します。リチウムイオン電池には、寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能が付いています。

下記①、②、③の場合、本製品を使用中にモーターが停止することがあります。これは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。
速やかに充電してください。
- ② 過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。
スイッチを切り、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに蓄電池の液漏れ、発熱・発煙・発火を未然に防ぐため、蓄電池の取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を守ってください。

○ 蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証ができません。

用途

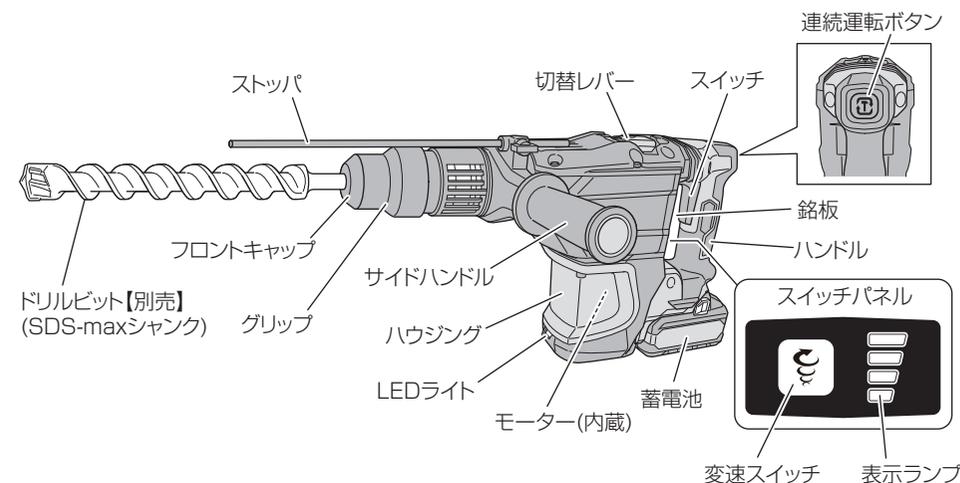
【回転+打撃】

- コンクリートの穴あけ
- アンカ下穴の穴あけ

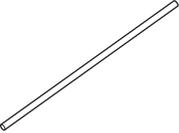
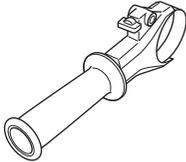
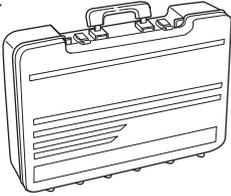
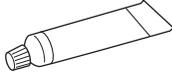
【打撃】

- コンクリートのハツリ・破碎・溝掘り・角出し・切断・はがし

各部の名称



標準付属品

品名	仕様	2WPZ	NNK
蓄電池 ●取扱い方法は、蓄電池の取扱説明書を確認してください。		2個	—
充電器 ●取扱い方法は、充電器の取扱説明書を確認してください。		1台	—
ストッパ 		1本	1本
サイドハンドル (本体装着) 		1個	1個
プラスチックケース 		1個	1個
電池カバー 		2個	—
グリース 		1個	1個

仕様

形名	DH 3640DA
穴あけ能力	ドリルビット：40 mm、コアビット：105 mm
無負荷回転数 [気温 20℃ 満充電時]	250 ~ 500 min ⁻¹ {回/分}
全負荷打撃数 [気温 20℃ 満充電時]	1,400 ~ 2,800 min ⁻¹ {打撃/分}
モーター	直流ブラシレスモーター
適用ビット	SDS-max シャンクタイプ
電池電圧	36 V
使用可能蓄電池	マルチボルトタイプ蓄電池
質量 [BSL 36B18X 装着時]	7.4 kg (サイドハンドル装着時) 7.1 kg (サイドハンドルなし)
LEDライト	白色
振動3軸合成値* ¹	回転+打撃：10.3 m/s ² * ² 打撃：10.1 m/s ²

※1：振動3軸合成値（周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値）については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会] ウェブサイト：<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powerool.html> を参照してください。

※2：振動3軸合成値は、EN62841-2-6 規格に基づき測定しています。

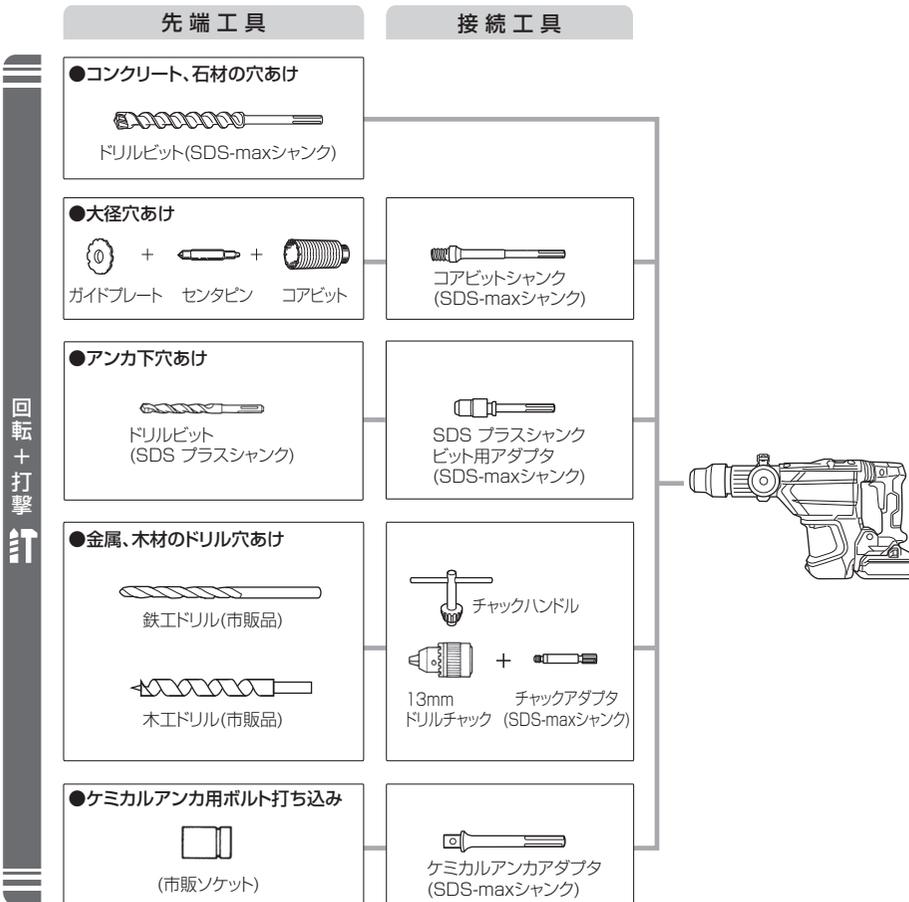
別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

用途に応じた先端工具(アタッチメント)を使用することで、いろいろな作業に利用できます。

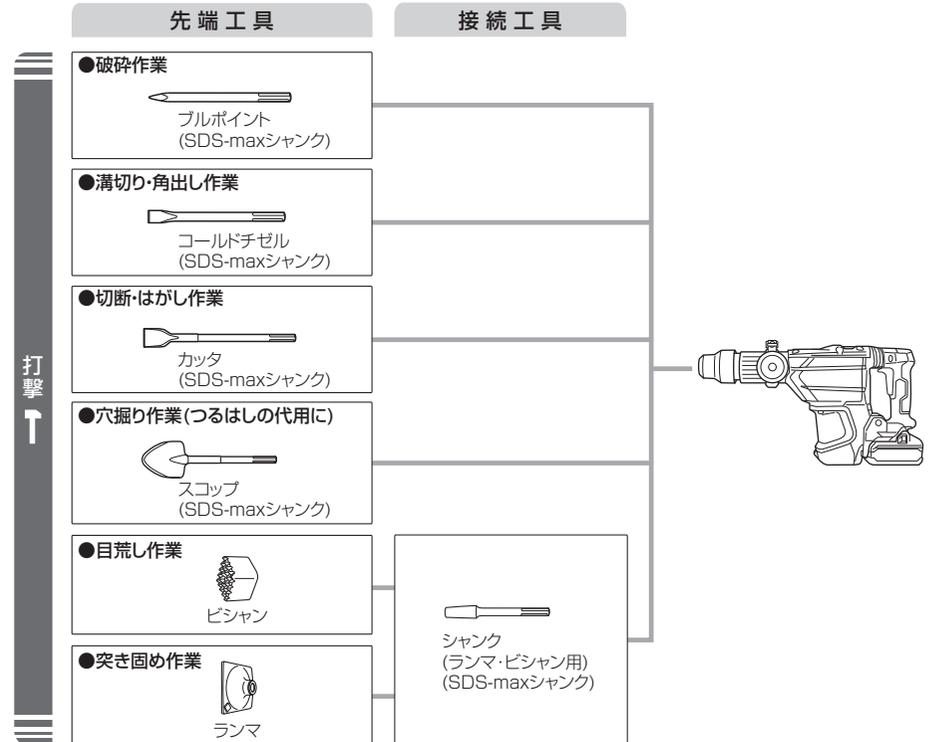
各部寸法等については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

なお、この機体の工具取付け部は SDS-max シャンク品専用となっておりますので、SDS-max シャンクの先端工具または各種アダプタ(接続工具)を使用してください。

● [回転+打撃] モードで使用



● [打撃] モードで使用



● その他

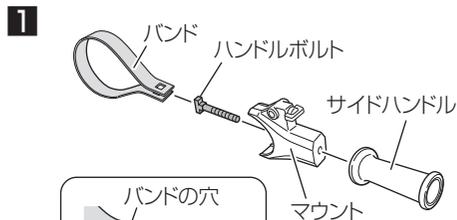
●スポイト(穴あけ後の切り粉除去用)



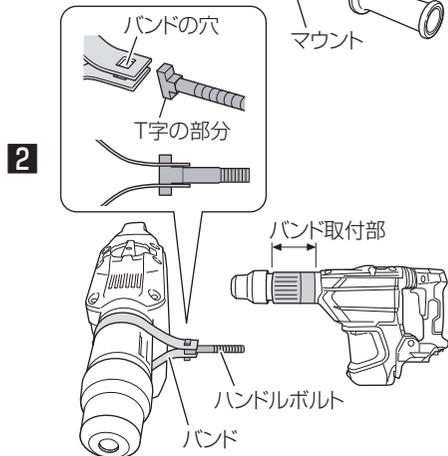
サイドハンドルの取付け

付属のサイドハンドルは、出荷時本体に装着しています。
取りはずした場合は、次の手順で取付けてください。

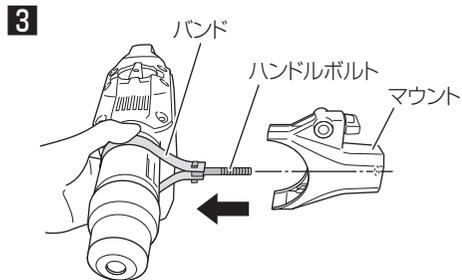
1 サイドハンドルの部品を確認します。



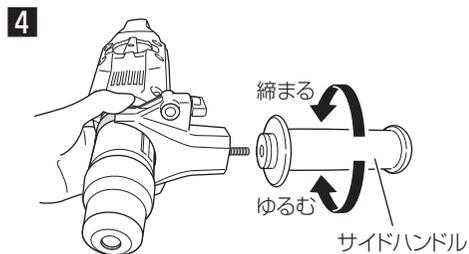
2 バンド取付部にバンドを取付け、ハンドルボルトのT字の部分をバンドの2つの穴に通します。



3 ハンドルボルトがバンドからはずれないように、バンドを押さえながらマウントを装着します。



4 サイドハンドルを取付け、作業に適した位置に合わせて固定します。この際、確実に固定されていることを確認してください。



工具の取付け・取りはずし

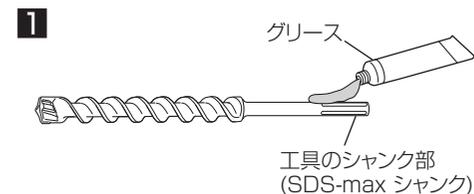
この機体の工具取付け部は SDS-max シャンク品専用となっておりますので、SDS-max シャンクの先端工具、または各種アダプタ(接続工具)を使用してください。

⚠ 注意

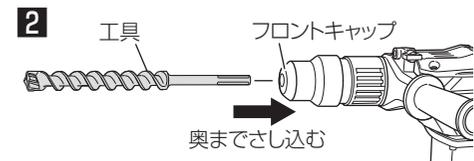
工具は弊社指定の別売部品を使用してください。
(P.11、12「別売部品」参照)

取付け

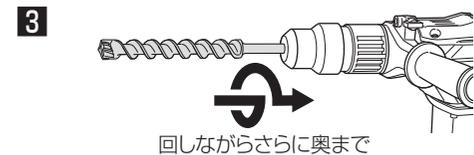
1 工具のシャンク部をきれいにふき、グリースまたは機械油を塗布します。摺動が円滑になり、工具を押し込みやすくなります。また、工具のシャンク部や取付け部の摩耗が軽減されます。



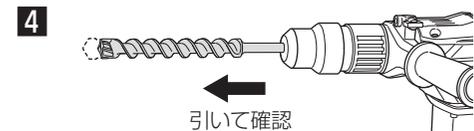
2 工具をフロントキャップの穴にさし込み、奥まで突き当てます。



3 工具を軽く押しながら回していくと、工具の溝がかみ合っさらに奥まで入って突き当たります。

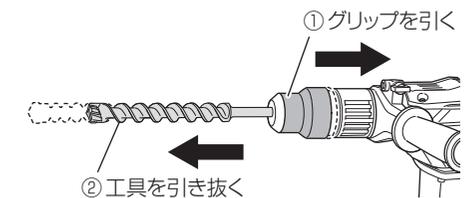


4 確実に工具が固定されたか、工具を引いて確認します。



取りはずし

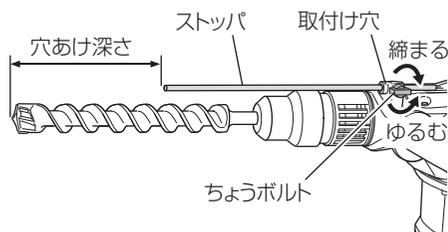
工具を取りはずすときは、グリップを矢印方向へ一杯に引き、工具を引き抜きます。



🔧 ストップパの使い方

付属のストップパは、穴あけ深さの調整に用いる物です。同じ深さの穴を連続してあける場合は、能率が上がり、穴の深さが正確になります。

1 ちょうボルトをゆるめ、サイドハンドルの取付け穴にストップパを通します。

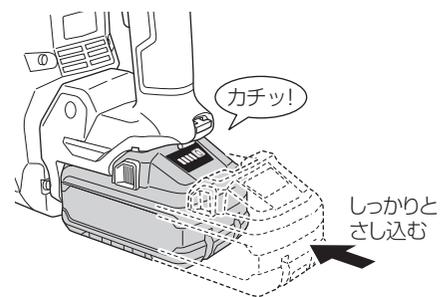


2 所定の穴深さになったとき、ストップパが材料に突き当たるよう位置を調整し、ちょうボルトを回してしっかりと固定します。

蓄電池の取付け・取りはずし

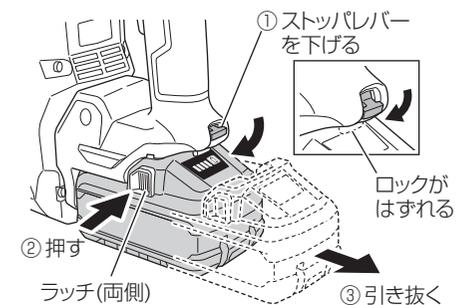
取付けるとき

「カチッ」と音がするまで、しっかりとさし込んでください。



取りはずすとき

ストップレバーを下げて、ロックをはずします。両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。

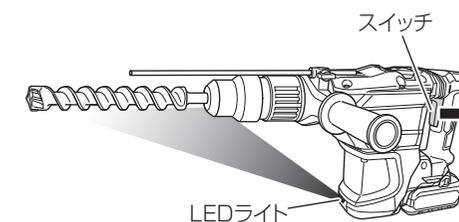


LED ライトについて

スイッチを引いている間、自動的に LED ライトが工具先端部を照らします。

スイッチから指をはなして、約 10 秒後に LED ライトは自動消灯します。

注 レンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、傷が付かないようにしてください。



作業モードの設定

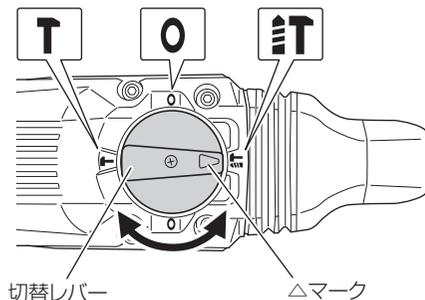
⚠ 注意

- モーター停止時に切替レバーを操作してください。
モーターの回転中に切り替えると、不意に工具が回り、思わぬ事故の原因になります。
- ハツリ・破碎用工具などは [打撃] モードで使用してください。
[回転+打撃] モードで使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

作業モードの設定

切替レバーを回して、△マークをクラックカバーの各マーク位置に合わせます。

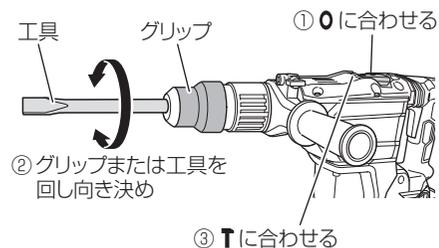
- ⚡…………… [回転+打撃] モード
- T…………… [打撃] モード
- 0…………… 工具の位置決め



工具の位置決め

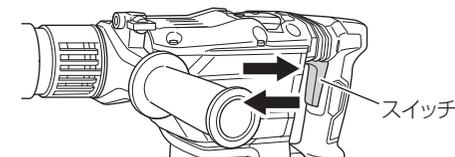
コールドチゼルや、スコップなどの工具先端の向きを決めるときは、

- ① 切替レバーの△マークを0に合わせて
- ② グリップまたは工具を回して、工具先端の向きを決めます。
- ③ 切替レバーを再び回して、△マークをTに合わせます。
- ④ 工具が回転しないことを確認します。



スイッチについて

スイッチは引くと入り、はなすと切れます。



連続運転ボタンについて

[打撃] モードで作業する場合のみ、スイッチを引いた状態で連続運転ボタンを押すと、スイッチをはなしても動き続ける連続運転になります。

⚠ 注意

本製品には磁気センサーが内蔵されているため、磁石（または同様の磁気装置）を機体に近づけないでください。誤作動をおこして、けがや故障の原因になります。

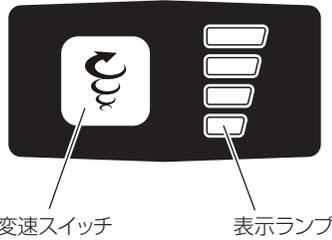
作業モード	操 作
T [打 撃]	運 転 スイッチを引いた状態で連続運転ボタンを押す。 (青色 LED: 点灯)
	解 除 連続運転ボタンを再度押す。
⚡ [回転+打撃]	連続運転ボタンは使用できません。

回転数・打撃数の調整

回転数・打撃数を調整する電子制御回路を内蔵しています。

もろい材料への穴あけ、ハツリ作業また芯出し作業など、作業内容により変速スイッチで回転数を切り替えてください。

変速スイッチを押すと、表示ランプとともに回転数が替わります。



- 注**
- 回転数・打撃数の調整は蓄電池を工具本体に取付け、一度スイッチを引いた後でないと切り替えできません。
 - モーターの回転中に変速スイッチを押しても切り替えはできません。スイッチを切り、機体を停止させてから、操作してください。

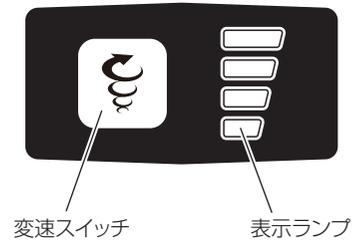
表示ランプ点灯状態				
回転数 min^{-1} {回/分}	250	340	420	500
打撃数 min^{-1} {打撃/分}	1,400	1,900	2,350	2,800

保護機能について

本機には機体に異常が発生した場合に、機体の損傷を防ぐ保護回路が内蔵されています。

次のような場合には、表示ランプが点滅して運転を制御したり、停止します。表示ランプの点滅状況を確認して対処してください。

変速スイッチは、スイッチを引いていない状態で押してください。



表示ランプ点滅状態	原因	対処方法
	内部温度が高温となり、規定値を超えたため、運転を停止した。 〔温度上昇保護機能〕	15～30分ほど機体を休めてください。 温度が下がると、変速スイッチを押した際に復帰します。
	機体に無理な力が加わり、過負荷状態となったため、運転を停止した。 〔過負荷保護機能〕	変速スイッチを押すと復帰します。 過負荷にならないよう作業してください。
	センサー信号の読み取りエラーのため、起動しない。 もしくは運転を停止した。 〔制御監視機能〕	変速スイッチを押すと復帰します。 連続して発生するときは、故障の可能性があります。

- 注** 対処方法を行っても表示ランプが点滅し続ける場合は、機体の故障が考えられます。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

RFCについて

本製品は、工具本体が振られてしまう現象を軽減する RFC (リアクティブフォースコントロール) が搭載されています。

急激に大きな負荷が先端工具にかかると、スリップクラッチ機構が作動する、または工具本体に内蔵されたコントローラがモーターを停止させ、上記現象を軽減します。

スイッチを引いている間、表示ランプが点滅します。さらに、スイッチを切ってから約3秒間点滅します。

点滅している間は運転できません。RFCが作動した原因を取り除いてから、作業を再開してください。

作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合がありますので、急激に大きな負荷が先端工具にかからないよう注意し、機体を確実に保持して作業してください。

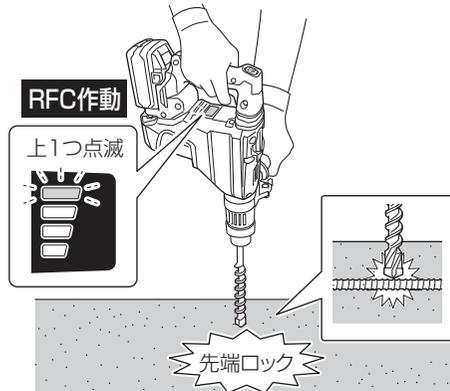
急激な負荷を発生させる原因

- ① 材料による先端工具のかみ込み
- ② 釘・金属などの接触
- ③ 機体をこじる作業・過度な押し付け

など、および、これらの複合的な原因があります。

RFC が作動したら…

RFC が作動してモーターが停止したときは、機体のスイッチを切り、大きな負荷となった原因を取り除いてから作業を再開してください。



スリップクラッチ機構について

この機構は、作業中の機体に急激に大きな負荷がかかったとき、モーターと先端工具の間の伝達部をスリップさせて、直接大きな反力がかかることを防止します。

(注1)

(注2)

注1: コンクリートの穴あけ中に、鉄筋等に当たり急に先端工具が止まろうとする力

注2: 先端工具が急に止まったとき、反動で機体側が回ろうとして、持っている手がねじられる力

注 スリップクラッチが作動し、先端工具の回転が停止した場合には、速やかにスイッチを切ってください。

作業上のご注意

● 連続作業について

本機はモーターおよびモーターの駆動制御を行っている電子部品を保護するため、温度保護回路が搭載されています。

連続作業を行うと、機体の温度が上昇するため温度保護回路が作動し、自動停止する場合があります。

その際は本機を十分に冷ましてください。温度が下がれば再び使用することができます。

連続的に作業する際は、蓄電池の交換時にコードレス工具本体を15分程度休ませてから使用してください。蓄電池の交換後すぐに作業を続けるとモーター、スイッチなどの温度が高くなり、故障の原因になります。

● 機体の保持と押し付け力について

機体を両手で確実に保持してください。また、先端工具を必要以上に押し付ける必要はありません。

先端工具にこじる力や押し付ける力が過度にかけると、機体が故障する原因になります。

穴をあける

[回転+打撃]

●コンクリートの穴あけ ●アンカ下穴の穴あけ

警告

サイドハンドルとハンドルをしっかり握って作業してください。
工具が鉄筋などに当たると急に止まり、その反動で機体が回ろうとします。

1 工具を取付ける

P.14「工具の取付け・取りはずし」の
手順に従い工具を取付けます。



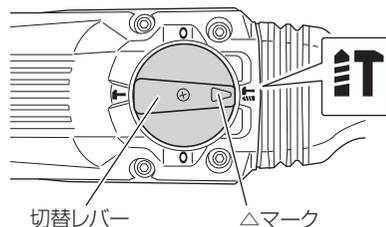
2 必要に応じてストッパを取付ける

(P.15「ストッパの使い方」参照)



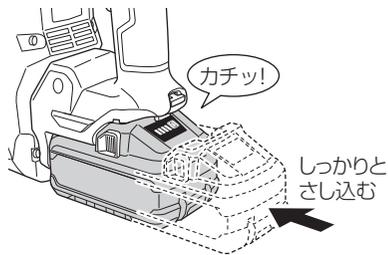
3 作業モードを [回転+打撃] に切り替える

△マークを **切替レバー** に合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



4 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで、しっかりと
さし込んでください。
(P.16「蓄電池の取付け・取りはずし」参照)



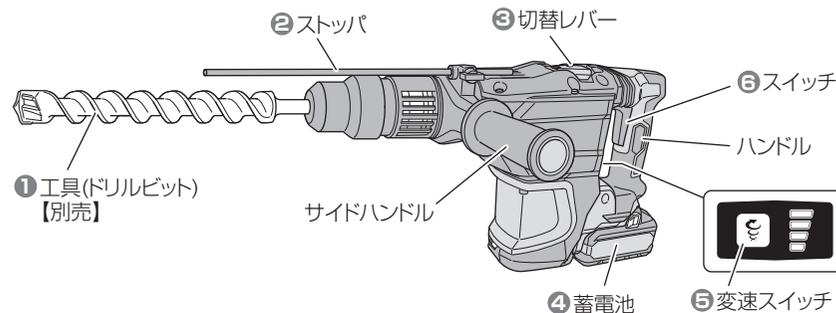
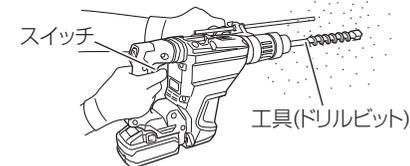
5 変速スイッチを設定する

一度スイッチを軽く引いた後、変速ス
イッチを押して、作業に応じた回転数・
打撃数を設定します。
(P.19「回転数・打撃数の調整」参照)

注 気温の低いとき、あるいは長期間使
用しなかったときなどは、5分ほど
空運転し、機体が暖まってから使用
してください。
グリースが固くなり、モーターが作動
しても打撃しない場合があります。

6 スイッチを入れる

穴あけ位置に工具の先を軽く当ててか
ら、スイッチを入れます。



● 1 充電当たりの作業量について

作業量は、コンクリートの状態、使用環境、蓄電池の状態などにより異なります。

(蓄電池 BSL 36B18X 使用時)

ドリルビット径	深さ	作業量(穴の数)
19 mm	60 mm	約 40 個
25 mm		約 25 個
32 mm		約 15 個

ハツリ・破碎する

[打撃]
コンクリートのハツリ・破碎・溝掘り・
角出し・切断・はがし

⚠️ 注意

ハツリ・破碎用工具などは[打撃]の位置で使用してください。
[回転+打撃]の位置で使用するとう具が回り、事故の原因になります。

1 工具を取付ける



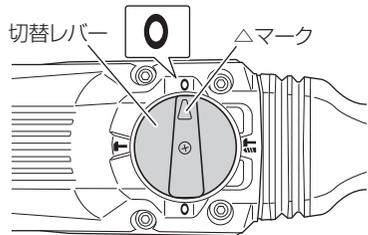
P.14「工具の取付け・取りはずし」の
手順に従い工具を取付けます。



2 工具の向きを決める



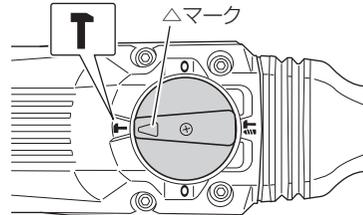
コールドチゼル、カッタ、スコップを
使用するとき、△マークを○に合わ
せ、工具先端の向きを決めます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



3 作業モードを[打撃]に切り替える

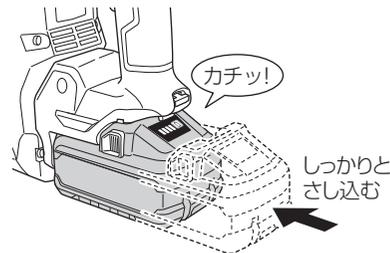


△マークをTに合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



4 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで、しっかりと
さし込んでください。
(P.16「蓄電池の取付け・取りはずし」参照)



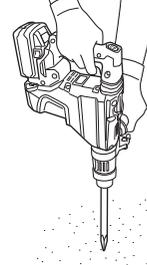
5 変速スイッチを設定する

一度スイッチを軽く引いた後、変速ス
イッチを押して、作業に応じた回転数・
打撃数を設定します。
(P.19「回転数・打撃数の調整」参照)

注 気温の低いとき、あるいは長期間使
用しなかったときなどは、5分ほど
空運転し、機体が暖まってから使用
してください。
グリースが固くなり、モーターが作動
しても打撃しない場合があります。

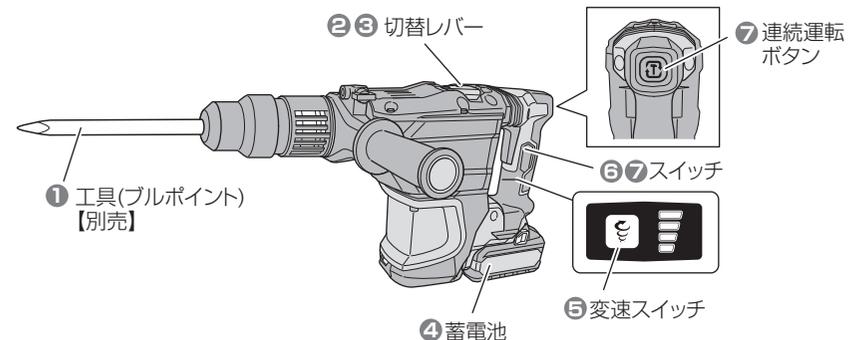
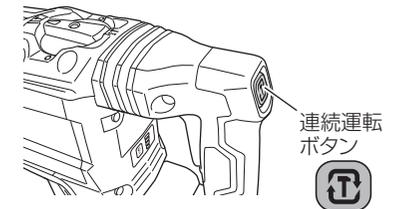
6 スイッチを入れる

ハツリ・破碎する位置
に工具先端を当ててか
らスイッチを入れます。
床面のハツリ・破碎の
際には、機体の自重を
利用し、反動を押さえる
程度に押し付けて作業
してください。



7 連続運転を使う

必要に応じて連続運転を使います。
連続運転ボタンを押すと、スイッチから
手をはなしても停止しません。
(P.18「連続運転ボタンについて」
参照)

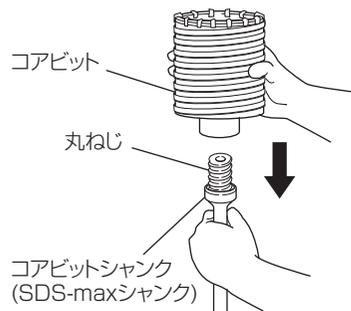


コアビット【別売部品】の使い方

コアビット、センタピン、コアビットシャンクなどのコアビット用別売部品を使用すると、大口径の貫通穴、止まり穴をあけることができます。
切替レバーを[回転+打撃]の位置にして使用してください。

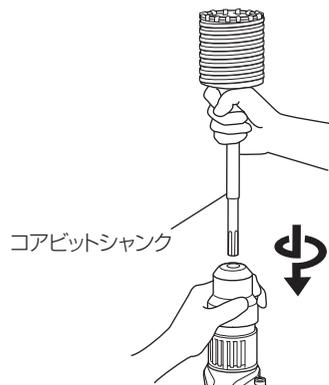
1 コアビットシャンクに コアビットを取付ける

丸ねじ部に油を塗っておくと、分解するときゆるみやすくなります。



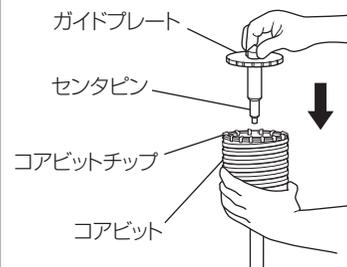
2 コアビットシャンクを 機体に取り付ける

P.14の「工具の取付け・取りはずし」と同じ要領で取付けます



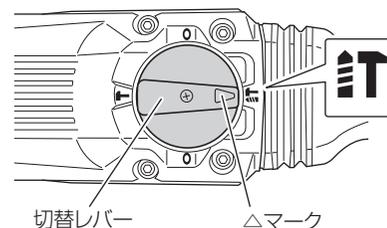
3 ガイドプレート、センタピンを コアビットにさし込む

- ① ガイドプレートにセンタピンを奥までさし込みます。
- ② ガイドプレートの凹部をコアビットチップに合わせてはめ込み、左・右どちらかに回します。



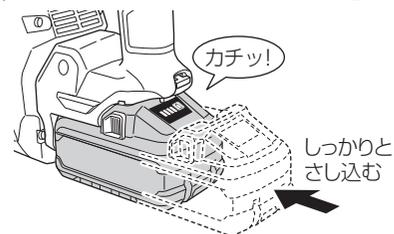
4 作業モードを [回転+打撃]に 切り替える

△マークを↑に合わせます。
(P.17「作業モードの設定」参照)



5 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで、しっかりとさし込んでください。
(P.16「蓄電池の取付け・取りはずし」参照)

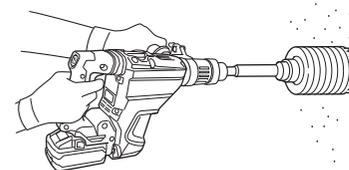


6 変速スイッチを設定する

一度スイッチを軽く引いた後、変速スイッチを押して、作業に応じた回転数・打撃数を設定します。
(P.19「回転数・打撃数の調整」参照)

7 スイッチを入れる

あけたい穴の中心にセンタピンを合わせ、穴あけを開始します。

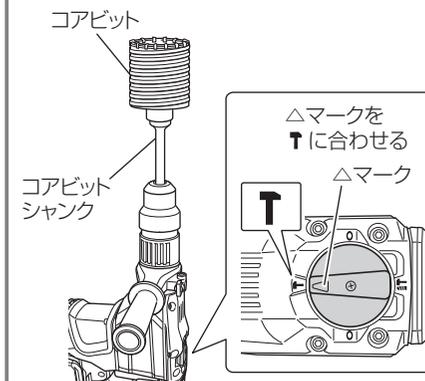


8 位置決め完成

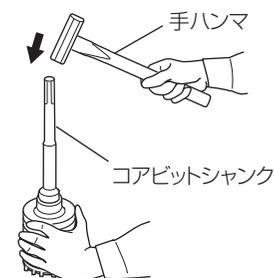
約5mm穿孔すると、位置決め溝が完成します。
コアビットからセンタピン、ガイドプレートを取りはずします。
完成した位置決め溝に合わせて、穴あけを再開します。

9 コアビットを取りはずす

- ① 作業モードを[打撃]にし、コアビットシャンクを機体に挿入したまま上向きにして、2～3回無負荷運転で打撃します。
これでコアビットとコアビットシャンクの締付けがゆるみます。



- ② 機体からコアビットシャンクをはずしてコアビットを手で持ち、コアビットシャンクの頭を手ハンマで2～3回強打すると、丸ねじがゆるみ、取りはずすことができます。



ドリルチャック【別売部品】の使い方

ドリルチャック、チャックアダプタを取付けると、ドリルとして使用できます。切替レバーを[回転+打撃]の位置にして使用してください。

⚠️ 注意

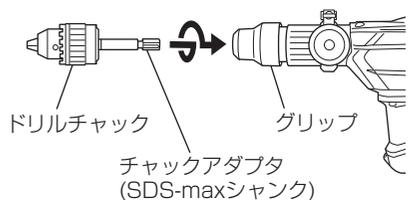
穴の抜きぎわにドリルを折ることがありますので、穴の抜きぎわに機体を材料に押し付ける力をゆるめてください。

1 ドリルチャックにチャックアダプタを取付ける

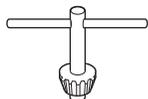


2 機体にチャックアダプタを取付ける

P.14の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い、チャックアダプタを取付けます。



3 市販のドリルを、チャックハンドルでドリルチャックに取付ける



4 以下 P.23「穴をあける」の②からの手順に従い作業する

保守・点検

● グリースの交換

この機体はグリース密封構造となっており、ほこりの侵入を防ぎ、長期間無給油で使用できます。

しかし、機体を長持ちさせるために6か月ごとにグリースの交換をしてください。

注 機体へ使用しているグリースは特殊グリースです。他のグリースを使用した場合、性能を損なう恐れがありますので、グリースの交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

● 工具の点検

摩耗した工具を使用するとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますので早めに研磨するか新品と交換してください。

● 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやねじのゆるみがないか定期的に点検してください。ねじがゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

● 端子部の点検

工具本体や蓄電池の端子部に切りくず、ほこりがたまっていないか点検してください。作業前、作業後のほかに作業中でも時々点検してください。

● 清掃する

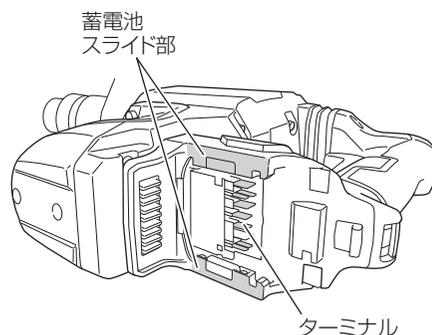
機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

●蓄電池取付部の清掃について

コンクリート穴あけ後、蓄電池取付部のターミナルや蓄電池スライド部にコンクリート粉じんが付着した際は、乾いた布などで付着したコンクリート粉じんを清掃してから使用してください。

また、清掃後、工具本体と蓄電池がスムーズに脱着することを確認してください。

注 コンクリート粉じんが付着したまま使用すると、使用中に蓄電池が落下するなど、事故の原因になります。また、蓄電池とターミナルの接触不良や故障の原因になります。



メモ

●モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）(P.8「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

注 ごみやほこりを排出するため、定期的に、モーターを無負荷運転させてください。機体内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が降りかかる場所、湿気がある場所
- 温度が急変する場所、直射日光が当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質が置いてある場所

メ モ

メ モ